

植物多様性センターの「タチクラマゴケの孢子嚢」

タチクラマゴケは、コケとは名がつきませんが、れっきとしたシダ植物です。もちろん、シダ植物なので孢子をつけます。ただし見慣れたシダとはちょっと違っていています。普通のシダは、葉の裏に円形や腎形などの孢子嚢群（ソーラス）をつけますが、そのかわりに、タチクラマゴケでは2種類の大きさの孢子の入る2種類の孢子嚢を葉の基部につけるのです。形もそれぞれ少し違いますのでご紹介します。



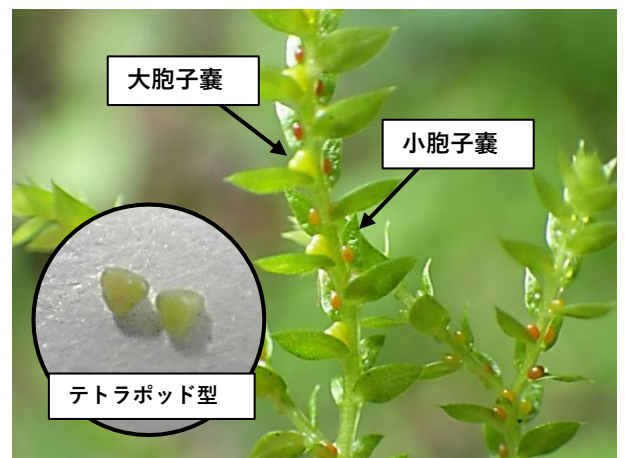
2種類の葉:小さな背葉と大きな腹葉が左右2列ずつ並ぶ



初夏のタチクラマゴケ:茎の先が立ち上がり始めている



立ち上がった茎の葉の基部に、若い孢子嚢をつけたようす



2種類の孢子嚢:大孢子嚢には4つの大孢子が入る(円内)